



アドビ株式会社
141-0032 品川区大崎 1-11-2
ゲートシティ大崎イーストタワー

アドビ、ビジネスパーソンによる PDF ファイルの 利用状況に関する日本での調査結果を発表

～6割以上が PDF は書き換えられないと誤解、セキュリティ対策への認識不足も明らかに～

【2022年11月30日】

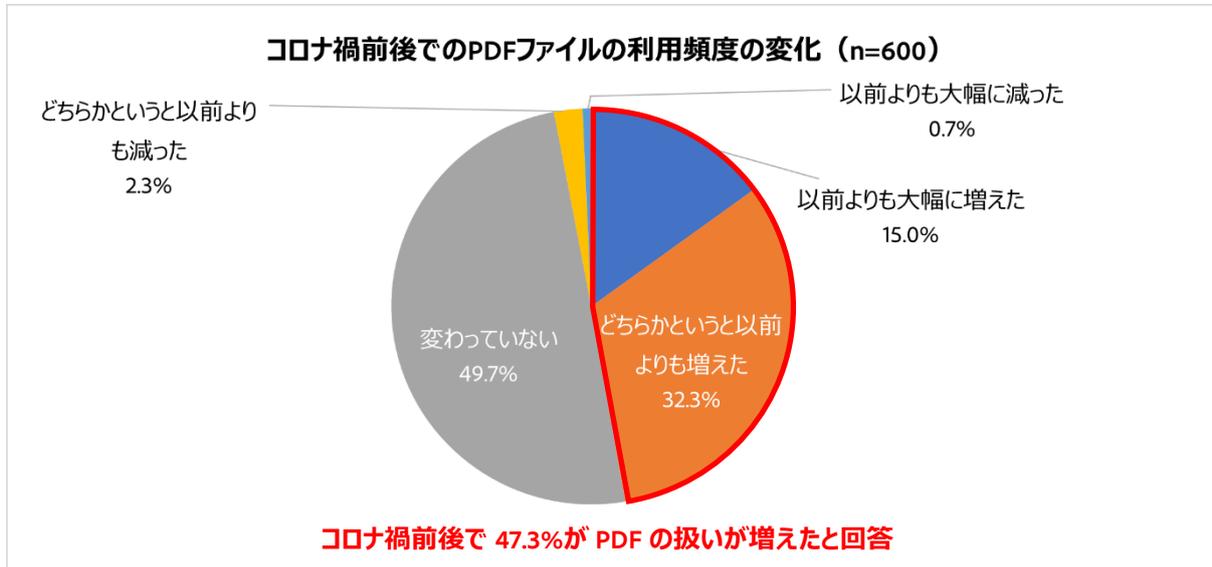
アドビ株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：神谷知信、以下アドビ）は本日、日本での PDF ファイルの利用状況や認識に関する実態調査の結果を発表しました。2008年にアドビが PDF（Portable Document Format）の仕様を ISO（国際標準化機構）に委譲してから、PDF はオープンスタンダードとなり、ISO によって管理されています。以降、その技術が広く活用されることで、現在では世界中で最も信頼できるファイルフォーマットのの一つとして普及しています。今回の調査は、PDF の開発元であるアドビが、来年で PDF の正式発表から 30 周年を迎える中で、普段仕事で PDF ファイルを利用しているビジネスパーソン 600 名を対象に実施したものです。

今回の調査で明らかになった主な結果は以下の通りです。

- 「コロナ禍前後で PDF ファイルの扱いが以前よりも増えた」と 47.3%が回答
- ビジネスパーソンの 4 割以上が PDF ファイルのイメージを「レイアウトが崩れない（45.3%）」・「編集ができない（44.2%）」と回答
- 「普段利用している PDF 機能」の最多回答は「変換機能（他ファイルから PDF 化）」57.8%、「知らなかった PDF 機能」の最多回答は「比較機能（2つの PDF ファイルの差分を確認）」35.0%
- 「運営元が不確かな無料のオンラインサービスを使って、ビジネス資料を PDF 化・編集したことがある」と 37.2%が回答、若年層ほど高い傾向
- 「機密性の高い文書を PDF 化する際、パスワード設定や権限設定を行っている」と 55.3%が回答、世代が上がるほど利用率が低い傾向
- 「PDF 化した後でも設定次第で、第三者が後から加工・修正できる」ことを 64.3%が「知らなかった」と回答

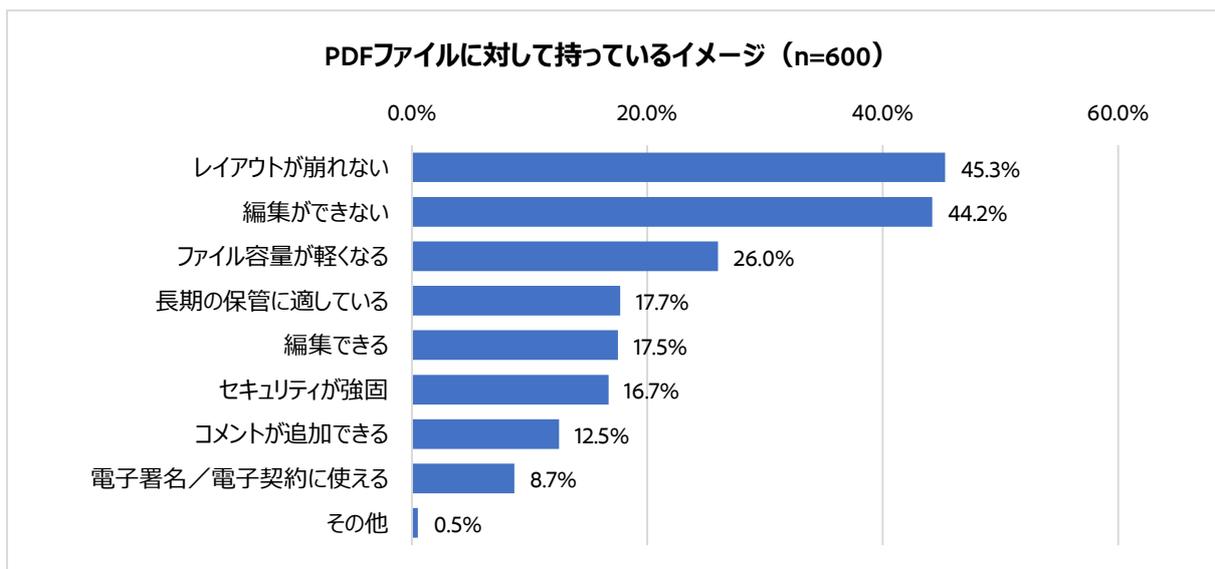
「コロナ禍前後で PDF ファイルの扱いが以前よりも増えた」と 47.3%が回答

コロナ禍前後での PDF ファイルの利用頻度について調べたところ、「以前よりも大幅に増えた」が 15.0%、「どちらかという以前よりも増えた」が 32.3%で、合わせて 47.3%が PDF ファイルの扱いが増えたと回答しました。



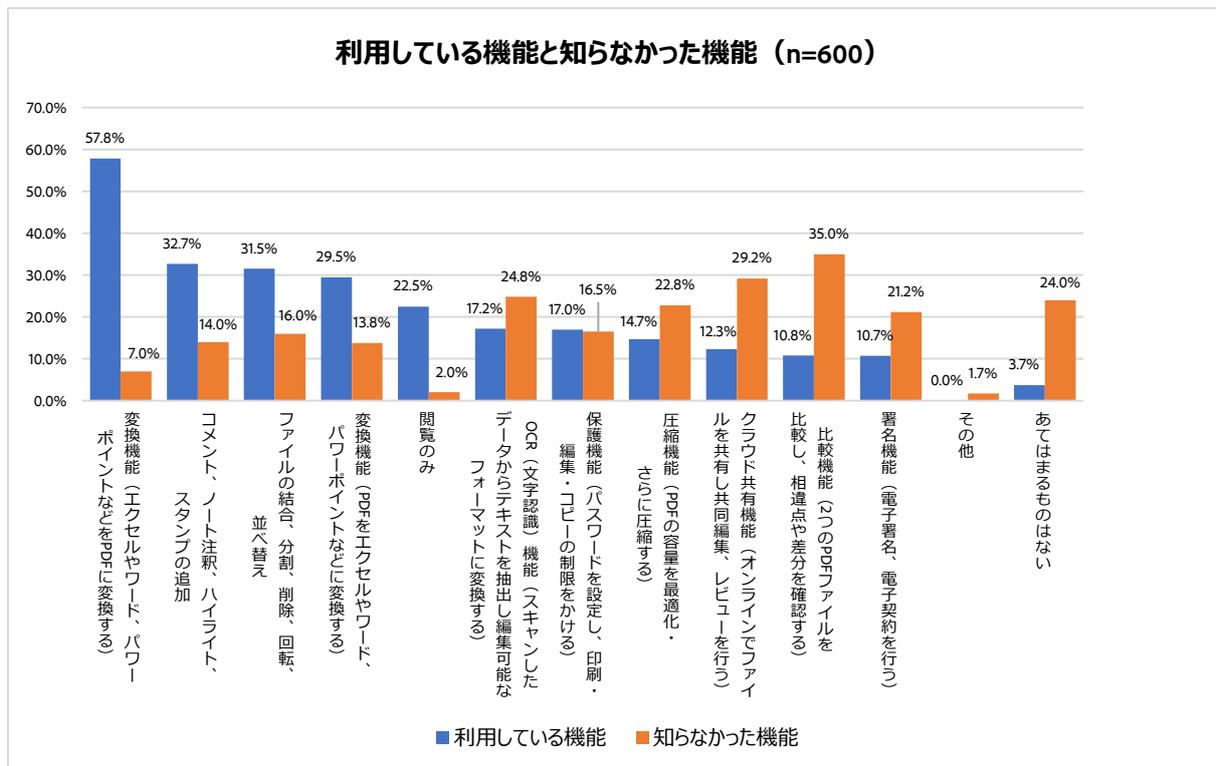
4 割以上が PDF ファイルのイメージを「レイアウトが崩れない (45.3%)」・「編集ができない (44.2%)」と回答

PDF ファイルに対してビジネスパーソンが持っているイメージを調べたところ、最も多かった回答は「レイアウトが崩れない」が 45.3%、次いで「編集ができない」が 44.2%と続きました。一方で、「電子署名/電子契約に使える」というイメージは 8.7%に留まりました。



「普段利用している PDF 機能」の最多回答は「変換機能（他ファイルから PDF 化）」57.8%、
 「知らなかった PDF 機能」の最多回答は「比較機能（2つの PDF ファイルの差分を確認）」
 35.0%

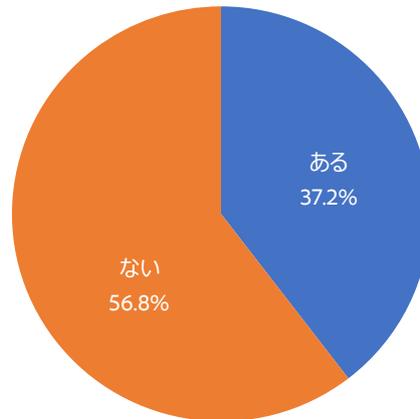
PDF ファイルに関して、普段利用している機能について聞いたところ、最も多かったのは「変換機能（エクセルやワード、パワーポイントなどを PDF に変換する）」で 57.8%でした。次いで、「コメント、ノート注釈、ハイライト、スタンプの追加」、および「ファイルの結合、分割、削除、回転、並べ替え」がそれぞれ 32.7%と 31.5%と、3 割以上が利用している形となりました。一方で、知らなかった機能として最も多かったのは「比較機能（2つの PDF ファイルを比較し、相違点や差分を確認する）」で 35.0%、次いで「クラウド共有機能」で 29.2%となりました。



「運営元が不確かな無料のオンラインサービスを使って、ビジネス資料を PDF 化・編集したことがある」と 37.2%が回答

運営元が不確かな無料のオンラインサービスを使って、ビジネス資料を PDF 化・編集をしたことがあるかどうか聞いたところ、20 代の男女においては半数以上が、全体では 37.2%が「ある」と回答しました。また、PDF ファイルの作成に使用するツールによって、体裁やフォントの再現性、長期の閲覧性に影響が出ることを「知っていた」とする回答者は 33.8%に留まりました。

運営元が不確かな無料サービスでビジネス資料をPDF化・編集をした経験
(n=600)

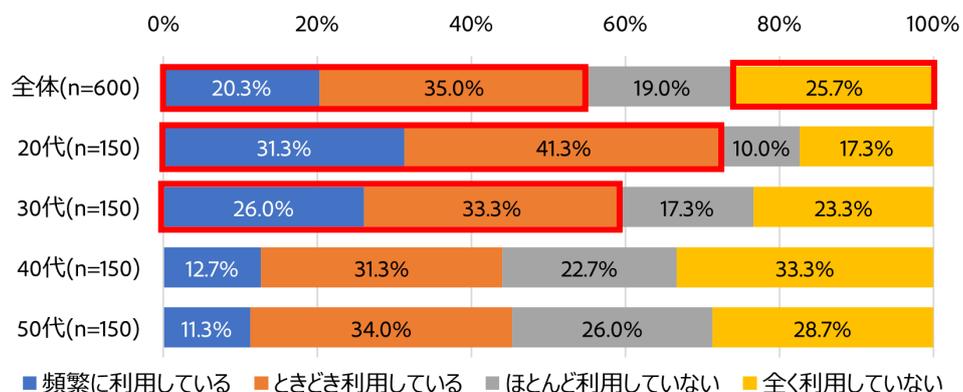


「機密性の高い文書をPDF化する際、パスワード設定や権限設定を行っている」と55.3%が回答、世代が上がるほど利用率が低い傾向

「PDF化した後も設定次第で、第三者が後から加工・修正できる」ことを64.3%が「知らなかった」と回答

機密性の高い文書をPDF化する際に、パスワード設定や権限設定を行っているかを聞いたところ、全体では「頻繁に利用している」が20.3%、「時々利用している」が35.0%で、合わせて利用率は55.3%となりました。年代別で見ると、20～30代では利用率がそれぞれ72.6%と59.3%と、平均より高い結果となりました。一方で、全体の25.7%にあたる、4人に1人以上がパスワード設定や権限設定を「全く利用していない」ことがわかりました。また、PDF化した後も設定次第では第三者が後から加工・修正できること、および個人情報の漏洩に繋がる危険性について認識があるか調べたところ、全体の64.3%が「知らなかった」と回答し、適切な設定をしないことによるセキュリティリスクが浮き彫りになりました。

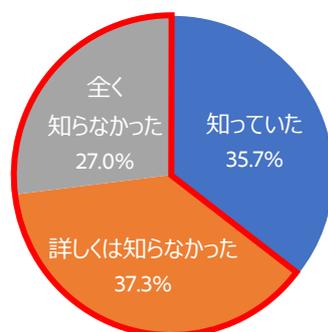
機密性の高い文書をPDF化する際のパスワード設定や権限設定の利用状況
(n=600)



パスワード・権限設定利用率は55.3%、年配層で低い傾向

「PDF化した後でも設定次第で、第三者が後から加工・修正できること」の認知率

(n=600)



64.3%が「知らなかった」と回答

今回の調査結果を受け、アドビ株式会社マーケティング本部デジタルメディア ビジネスマーケティング執行役員の竹嶋拓也は次のように述べています。

「今回の調査で PDF ファイルの利用増加がみられる通り、デジタルツールの普及は急速に進んでいます。Adobe Acrobat では前年比で半数以上の PDF がモバイルや web で開かれ、過去 1 年間で数億ものファイルが共有されています。また、年間で数兆もの PDF が作成されるなど、PDF をベースとした共同作業が加速しています。しかし、PDF がオープンスタンダードとなり普及した一方で、国際規格に準拠していなかったり、権限設定に不備がある PDF が数多く作られ、セキュリティリスクの増加といったトラブルが発生しているのも事実です。こうした中で、企業が最適なツールを導入して基盤を整え、ビジネスパーソンが正しい IT リテラシーを身に付けて文書管理を行うことが、喫緊の課題です。アドビは約 30 年前にデジタルドキュメントというカテゴリを創出し、それ以来機密文書の保護やツールを活用したコラボレーションの促進など、利用者のニーズに基づいて PDF をベースとした革新を提供してきましたが、これを継続することがアドビの DNA に刻まれた使命であると考えます。」

アドビは、PDF を基盤としたデジタルドキュメントの閲覧、編集、共有や、電子契約などの機能を提供して文書業務を効率化する統合ソリューション「Adobe Document Cloud」を提供しています。製品群の一つである「Adobe Acrobat」は、グローバル規格で高品質かつ安全性を担保したセキュアな PDF の作成や管理を、場所やデバイスを問わず行えます。さらに、共有レビュー機能を活用することにより、クラウド上で安全に書類を共有でき、電子サインソリューション

「Adobe Acrobat Sign」ですべてのデジタル署名のワークフローを推進するなど、業務効率も高められます。さらに、ビジネス版やエンタープライズ版では、Admin Console（管理コンソール）やカスタマイゼーションウィザードを用いてライセンス管理やセキュリティ設定の統制が可能であるため、企業でも安心して利用いただけます。「Adobe Document Cloud」に関する詳細は[こちら](#)からご覧ください。

「PDF ファイルの利用状況調査」 概要

調査方法：インターネット調査

実施対象：600 人（仕事でデスクワークを主とし、月に1回以上 PDF ファイルを扱っていると回答した 20～59 歳の全国のビジネスパーソン＜性別/年代で 75 名ずつ均等割付＞）

調査期間：2022 年 10 月 21 日～2022 年 10 月 26 日

「アドビ」について

アドビは、「世界を動かすデジタル体験を」をミッションとして、3つのクラウドソリューションで、優れた顧客体験を提供できるよう企業・個人のお客様を支援しています。[Creative Cloud](#) は、写真、デザイン、ビデオ、web、UX などのための 20 以上のデスクトップアプリやモバイルアプリ、サービスを提供しています。[Document Cloud](#) では、デジタル文書の作成、編集、共有、スキャン、署名が簡単にでき、デバイスに関わらず文書のやり取りと共同作業が安全に行えます。[Experience Cloud](#) は、コンテンツ管理、パーソナライゼーション、データ分析、コマースに対し、顧客ロイヤルティおよび企業の長期的な成功を推進する優れた顧客体験の提供を支援しています。これら製品、サービスの多くで、アドビの人工知能（AI）と機械学習のプラットフォームである [Adobe Sensei](#) を活用しています。

アドビ株式会社は米 Adobe Inc.の日本法人です。日本市場においては、人々の創造性を解放するデジタルトランスフォーメーションを推進するため、「心、おどる、デジタル」というビジョンのもと、心にひびく、社会がつながる、幸せなデジタル社会の実現を目指します。

アドビに関する詳細な情報は、web サイト (<https://www.adobe.com/jp/about-adobe.html>) をご覧ください。

###

©2022 Adobe Inc. All rights reserved. Adobe, Adobe Document Cloud, and the Adobe logo are either registered trademarks or trademarks of Adobe Inc. in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.